

会派視察・研修報告書

会派名 市民ネットワーク

代表者名 井上あけみ

1 日 に ち	令和2年11月12日（木） 9:35～12:30
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	民間立小中学校「瀬戸ツクルスクール」 瀬戸市松原町二丁目八番地
3 参 加 者	井上あけみ
4 調 査 内 容	不登校の子どもの居場所のあり方として、お隣の市で行われている民間スクールについて
5 所感、主な内容、提 言事項、課題等	瀬戸市在住で個人塾を開いていた一尾茂正（いちおしげひこ）氏が2014年開校した『瀬戸ツクルスクール』は、活動拠点が無く、公共施設を借りながら運営してきた。小中学生40人、スタッフは保護者が10人ほど。 2019年3月閉校した緑が丘女学院（3階建て調理室、鏡張り少ホール、教室）を、無償で借りられることになり、7月6日オープン式が行われ、市長等も参加。 一尾氏は「フリースクールとは理念が違う、オルタナティブスクールという概念だ」と説明。子どもたちからは利用料は徴収せず、建物の維持費分と保険料をいただくのみ。子どもたちは昼食代分を300円持ってきて、これをもって近所のスーパーやお店に行き食材を購入、調理室で調理して食べる。300円では足りないときは3人～5人で合計し見合う食材を買い、簡単な調理をする感じだ。中にはカップ麺ですませる子もいた。 昼食時まで見学し、子どもの買い物や食事作りの様子も見てきた。 朝はまず輪になって、今日何がしたいか、困っていることが無いかなど出し合い、解決ができない場合は、次に持ち越す。その後、子どもたちは自主学習をし、その後に好きな遊びをする。 一尾氏は利用料を無料としたことへの質問に対し、お金を取れば保護者の要望等に縛られる事や、責任問題になることを避ける為との事だった。 因みに、オルタナティブ教育とは、画一的な教育ではなく、子供個人を尊重し、子供が本来持っている探求心に基づいた活動を促し、子供自身が「自ら考え、学び、生き抜く力」を育成し、主体的に行動する教育。大人は「教師」ではなく、あくまでも子供をサポートする「スタッフ」という立ち位置となると言われている。つまり、子どもに教えるのではなく、子どもに気付かせる教育というように感じました。指示をしないという姿勢を貫くには信念が必要です。

6 写 真

